

DANRYU

KOBAYASHI DENKO

ネットトヨタ山陽

岡山県立大学

岡崎運送株

暖流

公益社団法人岡山青年会議所
Since 1951

2021

Vol. 4

お笑いを取り入れて
わかりやすく楽しく取り組むSDGs

現役会員のSDGs

一年の振り返り・報告

出向ってなに？

2021年 活動報告

2021年度テーマ



SPIRAL OF PLUS+

輝く運命を切り拓け!

公益社団法人
岡山青年会議所

JCI
Junior Chamber International Japan
OKAYAMA

公益社団法人
岡山青年会議所



Special Talk

お笑いを取り入れて、わかりやすく楽しく取り組むSDGs

河本 準一

吉本興業

小林 佑輔

公益社団法人 岡山青年会議所 第71代理事長

JCI
Junior Chamber International
OKAYAMA

JCI
Junior Chamber International
Japan
OKAYAMA

CONTENTS

Special Talk

お笑いを取り入れて、
わかりやすく楽しく取り組むSDGs
吉本興業河本準一さんと小林理事長の意見交換

現役会員のSDGs

一年の振り返り・報告

小林 佑輔
大岩 裕季・石井 聖至・幡山 益聖

01	出向ってなに？ 青年会議所活動での出向について	08
05	2021年 活動報告	09
06	01.スパイラルeスポーツ実施報告 02.フォトコンテスト実施報告 03.うらじゃのソコヂカラ実施報告	



Special Talk
お笑いを取り入れて、わかりやすく楽しく取り組むSDGs

河本準一 × 小林佑輔

吉本興業

Chamber International Japan
OKAYAMA

公益社団法人 岡山青年会議所 第71代理事長

義所

暖流

公益社団法人岡山青年会議所

Since 1951

2021年【暖流】発行にあたって

公益社団法人岡山青年会議所の広報誌「暖流」をご覧いただきありがとうございます。青年会議所「JC」は20歳から40歳までの青年経済人たちが、地域経済の活性化や地域の課題解決に取り組み「ひとづくり」や「まちづくり」をしている団体です。

JCは全国で691団体あり、岡山青年会議所は、全国でも9番目に早い1951年に設立されました。岡山青年会議所が脈々と受け継いできた「ひとづくり」の精神は、岡山のまちを担う品格あるリーダーの育成です。71年目を迎える今でも私たちの魂として心に宿り続けています。

人類史上に残る大転換点から約2年が経過しようとしています。私たち青年会議所にとっても最も大きな変化が生じた時期だと感じ、岡山青年会議所の本質をこれほど強く問われたのは、初めてではないでしょうか。コロナウイルスとの闘いは世界のトレンドとは反して、日本ではいよいよ終盤戦に差し掛かっている感覚が感じられるようになりました。まだ予断を許さない状況ではありますが、明るいニュースも多くなってきていると感じます。

また、「人手不足」「働き方改革」といった、コロナ前に私たちが抱えていた課題が、より大きなインパクトを伴って目の前に現れるという現象もすでに起きています。

私たち岡山青年会議所は、不易(原理原則)×流行(時流適応)を大切に、世界の流れを捉えつつ、時代が変わっても不変の考え方は何か。今回のコロナ禍でより強く浮き彫りとなりました。私たちは今こそ、改めてこれからの郷土おかやまの未来を創造していく人財を育まなければならないと強く感じています。

本年度、掲げさせていただいたスローガン「SPIRAL OF PULS～輝く運命を切り拓け!～」のもと、今年一年、岡山青年会議所では、若者らしくあらゆる事にプラスの発想で、少しでも岡山の皆様にとってインパクトがあり、そしてプラスワンとなる事業を構築し、目的に対しメンバー一人ひとりができることを模索し事業に挑戦してまいりました。

大人から子どもまで多くの市民がまちの未来に夢を抱き、一人ひとりが輝く活気に満ち溢れ持続可能な「おかやま」を創りだすために、これからも青年らしいパワーと感性で様々な事業に取り組んでまいります。

本年度、ご協力を賜りました関係団体の皆様、ご協賛を賜りました各企業の皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。

次年度の理事長予定者が決まり、本年度と次年度が錯綜する大変慌ただしい時期になりましたが、私自身も最後まで第71代理事長としての職務を全うする所存でございますので、引き続き岡山青年会議所に対し一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

公益社団法人岡山青年会議所 2021年度 第71代理事長

小林佑輔



河本 準一
Junichi Koumoto

昭和50年4月生まれ。岡山県出身のAB型。趣味はしつこいミニコント/マイナーものまね/サッカー/筋トレ。特技はサッカー/手話。吉本興業所属、NSC大阪校13期生。近年はSDGs(持続可能な開発目標)推進活動やボランティア活動といった社会的貢献や農業など幅広い活動に取り組んでいる。

河本 自分がブランドイングした米を全国の人に知ってもらいたいし、さらには日本の米の美味しさを世界にも知らせたいと思っています。そんな中で、ありがたいことに今年はいよいよ「準米」に興味をもつてくださり、契約することができました。

河本 SDGsのテーマ一つひとつに動き合っ

河本 これからの時代、SNSは切り離せないで

海外でも(国連の方からも)、SDGsとコメのコラボは賞賛されているようです。今後も様々な方面へつなげていきたいと考えています。

また、個人的には農業ですが、単に「農業」とだけ聞くと現代のIT社会に相反する動きに疑問を感じる人もいます。ですが、実は「農業」は日本の宝であり、日本の生活の中に当たり前にあったもの。なのに、長い歴史のなかで少しずつ離れてしまっている。その結果が、現在の輸入に頼る日本の食生活につながっているのでは



小林 佑輔
Yusuke Kobayashi

昭和56年3月生まれ。平成15年、国立大学法人信州大学経済学部を卒業後、松下電工株式会社に入社。平成20年に小林電工株式会社に入社し、令和元年に専務取締役就任後、現在に至る。公益社団法人岡山青年会議所には平成23年1月に入会し、平成27年に総務委員理事委員長、平成28年に専務理事、平成30年に交流室副理事長、令和元年に組織未来室副理事長、令和2年にひとりづくり室副理事長を歴任。

はなにかと思うんです。その輸入に関しても、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で麻痺するといった状況に、こうした背景もあって、コロナ禍以前にも増して、国産・地産地消の大切さが見直されたのではないのでしょうか。

ただ、国産の食材は高価な印象があります。その問題をなんとかできないかと考えたのが、農業を始めたいです。

現在は、岡山県の津山市

小林 お笑いや農業を通してSDGsに取り組む中で、良かったと思うことや印象に残っている体験などはありますか。

河本 良かったと思ったのは、SDGsの17の目標を、自分の生い立ちから吉本の芸人になった今にいたるまでの人生に当てはめてアメリカのメディア番組「TED」のノリで大学生に話したときに「めちゃくちゃウケたことですかね」「これは笑いでできる」と思った瞬間でしたね。

以前、MDGsと比べて2015年までに達成すべき8項目を目標とし発展途上国に目を向けた取り組みがあったのですが、SDGsはそれとは違うのですが、私達が暮らす日本でも起きていることができ、17項目に入っているというのを知ってもらいたいんです。例えば、この日本にも飢餓があるということ。

これを、私の身近で起きている出来事に置き換えて面白おかしく話したところに光が見えたという感じですね。この手応えを持って、イベントの企画についても会社に強く言えるようになりました。

2年ほど人々や車の往来が止まったことで、少し環境が改善されたようにも感じます。

人は長期間同じ状況下に身を置くと、慣れるんです。世の中は緊急事態宣言が解除されてもソーシャルディスタンスが続いています。外出できるようになったとは言っても街の出入はコロナ禍前に比べてはるかに少ないです。そしてリモートもいまだに継続中です。

お笑いの業界も同じ状況です。しかし、私はライブもこのままリモート継続でいいと言いつつ、今は長期間同じ状況下に身を置くと、慣れるんです。世の中は緊急事態宣言が解除されてもソーシャルディスタンスが続いています。外出できるようになったとは言っても街の出入はコロナ禍前に比べてはるかに少ないです。そしてリモートもいまだに継続中です。



現在テレビやラジオ、各地の劇場などで活躍される岡山県出身の芸人・河本さん。人を笑顔にしたいという思いで、勢力的に活動される中での、お笑いや農業を通したSDGsの取り組みや、岡山の未来について思うことなど、お話を伺いました。

特別対談

小林佑輔(以下、小林) 2015年に国連サミットで採択されたSDGsですが、私たちはまちづくりをしていく団体として、このSDGsにも率先して取り組んでいるところなんです。

河本さんかなり早い段階からSDGsに取り組んでらっしゃるということですが、SDGsを推進しようと思ったきっかけを教えてください。

河本準一(以下、河本) SDGsに取り組むきっかけは、現在所属している事務所である吉本興業株式会社(以下、吉本)がつくってくれました。あるとき吉本から「国連の日本支部からSDGsについて説明があるので、興味がある人は劇場へ」と呼びかけがあったのですが、当時はまだSDGsのことをよく知らず、知らないことに興味をわくわけもなく。

そこで、まずはSDGsのことを知ることから始めてみよう、劇場へ足を運んでみました。話を聞いてわかったことは、「もつと以前からやらなければならなかったことを改めて考え直し、より一層意識を高めて取り組んでいきたいと思います」ということでした。同時に「なぜわざわざ吉本にこの話しを？」という疑問もわきました。

よくよく聞いてみると、「SDGs×お笑い」を世界へ発信していきたいという提案だったわけです。実は、SDGsを「お笑い」とコラボして取り組んでいるのは世界的に見ても日本だけだそうで、SDGsを硬く重く捉えるのではなく、個人では「楽しく」「企業は「利益を生む」というスタンスで推進しよう」ということでした。

お笑いを取り入れることによって、SDGsの認知度を幅広い層に広げることができる。子ども達にも楽しく教えられる。企業にも笑いから利益を生むSDGsに賛同を得ていく方法を進めていけると考えて、この取り組みに吉本の中でも早めに手を挙げさせていただきました。

小林 なるほど。身の回りには「笑い」という手法で表現して楽しみながらSDGsを推進されているわけですね。では、現在取り組んでいることやこれから考えていることがあればお聞かせください。

河本 現在は、年齢層や開催場所によってどんなお笑いのイベントが適しているか考え、芸人達でネタを披露してグランプリを決めたり、子ども達に向けては〇×クイズしてみたりと、様々なスタイルの楽しい企画を提案しています。

ていくのは難しいかもしれませんが、つくる責任やつかう責任においては、時代とともに脱却していかなくてはならないことがあると思つて。芸能の世界にも様々な仕組みがあって、独自のルールもあってそれが根づいた文化があつて、そこからの脱却のひたつきのきっかけがSDGsなのかもしれないと思つたりもしています。

また、この約2年間のコロナ禍で、よりSDGsの大切さを教えられたようにも感じています。地球上では大量の資源を使い、電気を使い、車を走らせ、これ以上賢く使っていないら地球が壊れるぞ」という警告のようにも感じました。

現役会員の SDGsの取り組み

ライフオス株式会社 取締役 / まちづくり委員会 委員 **大塚 充**

ライフオス株式会社では、廃木材をボイラー燃料である木材チップへとリサイクルし販売するという、自然と深くかかわる、SDGsに関連した事業を社業としてきました。限りある資源である木材の有効利用やリサイクルを考えていくうえで、エコアクション21という認証取得も行き、再生可能エネルギーやクリーンエネルギーの活用を促進し、CO2排出量削減に尽力しています。また、会社全体のSDGsに対する意識向上を目的として、年に2回、社員がチームを組んで行う、仕事改善プレゼン大会があります。この取り組みを通して、地域と密着した活動として周辺の清掃活動や、ペットボトルキャップを回収しワクチンを提供するといった、SDGsに関連した取り組みが生まれ、定着しています。木材事業のみならず、不動産事業やプロパンガス事業も行い、生活に密着した、住み続けられるまちづくり事業に邁進してまいります。



ライフオス株式会社
http://www.lifos.co.jp/



株式会社いぶき 代表取締役 / ポジティブインパクト共創委員会 委員 **梶岡洋介**



株式会社いぶきでは、生産した野菜を余すことなく活用するため、規格外で商品にならない野菜を利用したマカロンの製造販売に取り組んでいます。多くの人に安心して食べてもらえるよう、アレルギーフリーにこだわったスイーツ作りを行っています。また、マカロンの梱包作業は、就労継続支援B型事業所に委託しており、障がいを持たれた方の社会参加にもつながっています。この取り組みは様々なメディアで取り上げていただいたこともあり、取り組みに賛同いただけるお客様からのご購入につながっています。梱包作業を行ってくださる方もとても喜んでくださり、働くことの楽しさにつながっています。また、生産過剰となった野菜を北長瀬駅にあるコミュニティフリッジに寄付することで、家計の厳しい方々の健康へと貢献できればと思います。これからも、すべての子供たちに「健康」と「おいしい」を提供できるよう、食の視点から広がるSDGsの取り組みを推進していきます。



株式会社いぶき
http://www.ibuki-yasai.com



すね。地方創生というのもSDGsの取り組みの一環になっていますが、今まで東京ばかりが極集中でみんなが東京へ集まっていた時代から、地方でもできることに気づいた今、地元に戻ろうとする人が増えています。

そうした中でただ単に戻るのではなく、地元で何かできないかということ、吉本も含めて活動して、吉本ではYouTubeのチャンネルを設けて、全国の地産地消×地方創生×笑いを、地方から発信しています。近々BSの24時間チャンネルもできます。そこらでは、今全国47都道府県にいる「よしもど住みます芸人」の活動報告の場所をつくり、芸人同士の横のつながりを持ちたいと考えています。

各地方で頑張っている芸人がそれぞれ自分の良さや地方の特産物などをアピールしていき、最終的に東京で大会を開催すれば全国から人が集まり、それをまた各地に持ち帰って地方も潤うといった仕組みづくりも視野に入れています。

小林 岡山青年会議所も、まちづくりをしていく中でSDGsを絡めた活動を行っています。

岡山県出身の河本さんから見る岡山のSDGsの推進について、また全国で活躍されている中で改めて見る岡山の魅力、岡山にしかないSDGsなど、これからの私たちの活動のヒントとなるような発想・意見があればお聞かせいただけますでしょうか。

河本 岡山は広いですが、東北・関東・南のつながりがあり見えにくいように思っています。海が豊かさと陸の豊かさを守りながら、それを上手くコラボできているのでしょから、岡山には瀬戸大橋があり、美しい瀬戸内海とそこに浮かぶ島々、陸には山や川もあり、もつとインパクトのあるアピールをしてもいいのではないのでしょうか。晴れの国については、私も番組の中で押してみたりしますが、それが直接岡山の魅力につながりませんが、それが直接岡山の一級河川が3本も流れていて水も豊かなのはなかなか珍しいことなのに。なんだかもったいないように思っています。

中海気候のイタリア・シチリア島のようなところを全面的に押ししていくくらいでもないと思うんですよ。

今岡山の芸人さんもおたくさん出てきていますし、頑張っているから、そうゆう人達を担ぎ出して、岡山がめちゃくちゃ面白くて楽しくて陽気なまちなんだというところが発信できたら、まちが変わるのではないかと、思います。

あれだけ桃鉄が人気なわけですから、実際に桃太郎ランドくらいあってもいいんじゃないですかね。

私は児島で残反を使ってエコバッグと服も作っているのですが、これもSDGsで、その工場が瀬戸大橋のふもとにありまして、いつも海がキラキラしているんですよ。でもこの風景をテレビで見ることがない、灯台下暗しということでしょうか。ぜひ、岡山青年会議所のメンバーでこの美しい景色を見せる番組を作ってほしいですね。岡山には放送局もたくさんあるし、今はSNSがあるので、岡山県だけの番組であっても、全国に広まるのはあつという間ですから、YouTubeやTikTokのチャンネルをつくって岡山の魅力をアピールして、いってはどうでしょうか。これからの時代に必須のツールになると思います。

あと、岡山のと真ん中に「桃太郎ランド」を！これは私の夢でもありますけど、アジトを作るだけでもいいです。岡山県出身の芸人達でそこから岡山全体をフィーチャーして、番組でアピールしていくような、何かできると面白いでしょう。

小林 私たち岡山青年会議所の本年度のテーマは「バイラルオプレーション」で、プラス思考の県民を増やす活動を行っています。岡山県全体にプラスのスパイラルを巻き起こしていきたいと考えているのですが、河本さん、岡山のために何かこれからご協力いただけることなどは是非相談させていただきます。

河本 是非是非！岡山青年会議所のメンバーのみなさんで、例えば「フェスがやりたい。これを毎年の行事にしたい。最低でも10年は続けたい」ということでもなれば、スタートの年から目標の10

年目までSDGsとコラボして、毎年必ず地産地消で岡山県の特産品が集まるフェスを開催したいですね。大きなフェスが開催される会場を設けて、岡山が世界に誇る木下大サーカスをはじめ、岡山が生んだものをすべて集めて、SDGsの取り組みも絡めて、また全体に一体感が生まれるイベントにしましょう。岡山にゆかりのある芸人さんやスポーツ選手、アーティストなどみんなに声をかけて、子ども達にも夢を与えられると思います。

「岡山×SDGs」で未来都市岡山に、一年に3日間だけでも、SDGsのバッジのようにカラフルなまちになれば魅力的ですね。岡山は交通の便も悪くないので、他県からの集客もありますよ。

小林 このようなイベント・発想は、ありそうではなかった。できていませんでしたね。

河本 私たちは、こういった楽しいことが好きですから、岡山には全国レベルの企業もたくさんありますから、ワークショップも開催して子ども達に夢を与えたいですね。

夢学校のような場所づくりも、私の中にプロジェクトとしてあるんです。様々な業種の人に一日先生として来てもらい、未来の職業選択肢を子ども達に実際に聞いて感じてほしいですね。

職業も今の時代に合わせて、ユーチューバーやティックトッカーなども含めて、このような子ども達に合わせた夢のあるイベントもできるのではないかと考えています。

小林 私たちも、5年前から「キッズビジネスパーク」という子どもたちの職業体験イベントを開催しています。これをもっと大きくすることやフェスの開催など、来年以降の活動の参考にさせていただきます。

河本 是非みなさんで動いていただいで、私にできることは協力させていただきます。



小林 最後になりますが、岡山の未来を担う子ども達に向けてメッセージをお願いいたします。

河本 世の中は私たちが若い頃とはまた変わってきていて、今は情報があふれていますし、色々なものがすぐに手に入ります。このような社会の中に育つ子ども達は、自分で考える力が乏しくなっているのではないかと、言われていますが、そんな中でも岡山は質の高い教育を行っている素晴らしい県だと思います。

何でもすぐに手に入るこの時代、社会にあって、人に優しくできる人であってほしいし、自分で考える力を持って前に一歩ずつ進んでほしいと思います。

小林 そうですね。今日は私たちが岡山のまちをより良くしていくための今後の活動について、色々ヒントをいただきました。桃太郎フェスも是非行政を巻き込み、SDGsも絡めて企業の賛同も得ながら企画していきたいと思っています。

また是非色々な企画を一緒に考えてください。本日はどうもありがとうございました！

※この対談はマスク着用(写真撮影時以外)、手指消毒、検温チェック、ソーシャルディスタンスの確保等、安全面に最大限配慮したうえで行いました。

2021年度 監事・理事執行部 一年間の振り返り・報告



監事
大岩 裕季

本年度は小林理事長より監事という大役を仰せつかりました。執行部の中では入会歴の浅い中で、監事という職に就かせて頂き、会員の皆様の立場に寄り添いながら、一年間活動をさせていただきました。コロナ禍の中で様々なことに規制がかかる中で、そんな時世だからこそ今まで先輩諸兄が築き上げてきた「不易」と、ウィズコロナ・アフターコロナに向けて、新たな挑戦を繰り返していく「挑戦」を意識しつつ、メンバーの皆様の一つでもプラスになることを願って時には厳しく発言をさせていただきました。LOMの発展を願ってのことだとお許しいただければ幸いに存じます。

最後になりますが、監事として貴重な経験をさせていただいたことに、メンバーの皆様へ感謝を申し上げ、事業報告とさせていただきます。



未来創造室 副理事長
石井 聖至

本年度、未来創造室の副理事長を務めさせていただきました。
未来創造室では、高島委員長率いる地域経済連携委員会にて、「持続可能な社会推進事業」と、「シゴトカレッジ」の二事業を実施いたしました。「持続可能な社会推進事業」においては、SDGsをLOMメンバーに深く浸透させ、それにより地域に広げていくことを目的とし、ありがとうファーム様ご協力のもと、SDGsの基本概念を学ぶと同時に、メンバー企業においてSDGsの取り組みを促進され、多くの取り組みが行われたことは大きな成果であったと感じています。「シゴトカレッジ」においても、地域課題解決と地域経済発展につながる人材を育成することを目的とし、IPU環太平洋大学様と連携を結び、多くの学生に学びの機会を提供することができ、地域に貢献できる人材の育成につながる事ができたと感じております。

また、笹山委員長率いるプラスワン創造委員会では、拡大活動および広報活動に取り組んでまいりました。LOM全体を巻き込む拡大手法で後期入会のみで16名と大変多くの新たな仲間を迎え入れることができ、広報活動においてもSNSを活用し多くの市民の方に岡山青年会議所の活動を認知していただくよう努めてまいりました。

両委員会とも、新型コロナウイルスの影響により、事業変更や活動自粛を余儀なくされる中、最大限できることを実施し、地域はもちろんのこと、LOMの発展、メンバーの成長につながる事ができました。改めて本年度未来創造室の活動に関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げます。一年間ありがとうございました。



総務室 専務理事
幡山 益聖

本年度、小林理事長より専務理事の大役を仰せつかり、理事長の側でしっかりとサポートできるよう、事業に対しても2021年度のコロナ禍に対してどのような活動ができるか、先行き不透明な中LOMの組織運営に努めて参りました。楽しさの中に学びを取り入れ、細部までこだわりを持たれた小林理事長より、多くの学びをいただけたこと、専務理事として至らぬ点が多々あったかと思いますが、様々なことをさせていただき感謝の念でいっぱいです。総務室としても、明日どうなるかわからない世の中で、活動指針を節目で発信させていただき、メンバーが節度ある行動をすることで品格とプライドをもっていただけるように努めて参りました。

本年度、支える立場でありながら、総務室メンバー、セクレタリーと多くの方々に支えていただいた事に心より感謝いたしております。そして、一年間関係各所と特別会員の皆様より多大なるご協力を賜りましたこと、衷心より感謝申し上げます。



Report

2021年度 理事長 一年間の 振り返り・報告



2021年度の岡山青年会議所の事業、運動も無事に終了することができました。今年度のスローガンは「SPIRAL OF PLUS ～輝く運命を切り拓け!～」を掲げて、若者らしい純粋な正義感と果敢に動く行動力をもって、まちが明るく輝く「プラス」のスパイラルを生み出していく運動を展開して参りました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、予定していた事業の変更や中止を余儀なくされましたが、常に状況をポジティブに捉え、能動的に今求められる活動を行い、成長につながる事ができたと確信しております。

Withコロナを念頭に社会情勢に左右されない事業の構築を検討し、初代桃太郎像を桃太郎空港へ移贈、eスポーツを活用した「スパイラルeスポーツ桃太郎カップ」や、子どもたちの防災知識を向上させる「防災アドベンチャー」を開催いたしました。中でもeスポーツ事業はライブ配信の視聴回数が2万再生に迫り、今後の活動においても新たな可能性を見出すことができました。毎年継続して開催してきた事業は、昨年に続き中止となりましたが「うらじゃ」に関しては火種を絶やすことのないよう継承を目的に代替事業を開催することができました。さらに、子どもたちの認知度を上げることを目的に、デザインやストーリーの公募にて絵本を作製し、地域の幼稚園に寄贈を行い、この絵本に触れた園児が将来「うらじゃ」の担い手となっていただければ幸いです。環太平洋大学と連携協定を結び、地域の大学生と企業が課題解決を共に考える「シゴトカレッジ」を開催いたしました。社会に求められる経済活動の重要性やSDGsにつながる学びと実践の機会を創出することで、地域経済を担う次世代のリーダーを育成することができたと感じています。また、年間4回発行させていただいている「暖流」やメディアを通じて行政をはじめとする関係各位、特別会員の皆様のご支援ご協力、ご理解をいただき、岡山青年会議所の魅力を知っていただく機会に繋がったのではないかと感じています。

最後になりますが、多くの仲間と共に時間を過ごすことができたことを心より感謝申し上げます。活動報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。2022年度は、より存在価値を高めさらに発展していくことを心より願っております。

公益社団法人岡山青年会議所 2021年度 第71代理事長

小林 佑輔

ACTIVITY REPORT

2021年 活動報告

REPORT 1 スパイラルeスポーツ実施報告

2021年8月29日(日)にスパイラルeスポーツ桃太郎カップ2021を実施させていただきました。トーナメントにご参加をいただきまして皆様、心より深く御礼申し上げます。

コロナ禍の状況下ではありますが、オンライン開催だからこそできた事業ですし、そして日本全国多くの皆様にご参加いただいたこと大変嬉しく、楽しい時間を共有できたことに感銘を受けております。

本事業に対し、多大なるご理解、またご協力いただきました皆様、改めて心より感謝申し上げます。

【当日競技参加者】

FORTNITE 285/285人、鉄拳 128/128人、ボンバーマン 142/240人
全体 555/653人

募集予定の約85%の方に参加いただけました。

【各媒体閲覧実績】

WEBサイト:累計 49000 view(当日 1500view)

YouTube:累計25000 再生(本部 2400 再生)

Twitter:7月初旬~8月29日 100万view(当日 16万view)



REPORT 2 フォトコンテスト実施報告

初代桃太郎像の復活を記念して、2021年6月21日(月)~7月21日(水)の応募期間でフォトコンテストが開催されました。「私が写す桃太郎!」をテーマにし、魅力的に撮影した桃太郎像や桃太郎像と一緒に撮影した写真をInstagramにて募集しました。

受賞者された皆様、本当におめでとうございます!また、ご参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。引き続き、岡山のまちのために活動して参りますのでご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

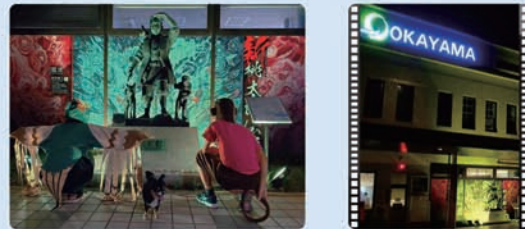
アフタヌーン部門受賞作品



グランプリ作品

準グランプリ作品

ナイト部門受賞作品



グランプリ作品

準グランプリ作品

REPORT 3 うらじゃのソコチカラ実施報告

新型コロナウイルスの影響を受け、2年連続で中止となったうらじゃ本祭。それでも、うらじゃの火種を絶やすことなく、関係者ひとりひとりの想いを汲み取り、次年度へ継承する為にテーマを「継承」として「うらじゃのソコチカラ2021~継承~」を2021年11月21日(日)に旧山下小学校にて実施しました。当日は会場への収容人数を制限し、またYouTubeでのライブ配信を行うことで新型コロナウイルスへの万全な対策が行われました。参加された17連の皆様様の演舞や総踊りで、会場は本祭のような活気に溢れました。来年こそはうらじゃ本祭が開催できることを願うとともに、本年度ご協力をいただきました皆様、誠にありがとうございました。引き続きご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。



日本青年会議所への出向ってなに?



どんなことをするのか?

全国各地には約690の青年会議所があり、岡山青年会議所(以下:JCI岡山)もその一つです。各地の青年会議所には日本青年会議所(以下JCI日本)への出向という仕組みがあり、岡山で言えば、出向者はJCI岡山に籍を置いてエリア内での活動をしながらも、JCI日本にも出向して活動します。

JCI日本は、各青年会議所からの出向者約1800名程度で構成された組織です。役割としては、国家単位での施策、社会課題に取り組むことが一つで、様々な協議会が組織されています。日本の国土強靱化に対して取り組んだり、国連や各国との協働事業を行ったりと、活動は国内だけでなく国際社会を巻き込んだものまであります。また、各地域の青年会議所の総合調整機関としての役割もあり、全国各地に約10の支部、岡山で言えば日本青年会議所中国地区協議会があり、その下には岡山ブロック協議会も組織されています。

出向者インタビュー(1年間の振り返り・報告) 総務グループ ブランディング戦略会議 副議長 二垣幸広さん

私は2021年度、日本青年会議所 総務グループ ブランディング戦略会議に出向し、副議長(Vice Chairman)を務めました。私が所属していたブランディング戦略会議では、ブランディング向上を主な事業としており、HP・SNS・メディア・広報誌など有機的に連動させることで、効果的な情報発信を行い、日本青年会議所の認知度向上や、各地の青年会議所のブランディング向上をすることで、入会者の増加にも繋げ、現在のJCIの取り組みが次の世代にも引き継がれることを目的としています。

総務グループ ブランディング戦略会議 副議長 二垣幸広さん



出向して良かったことは?

出向を経験するまでは、JCI岡山のことは知りませんでしたが、違うやり方や文化を知ることができ、JCI岡山とJCI日本とで良い点・悪い点を比較し、良いものを岡山に持って帰ることができていると思っています。各エリアでは副理事長や監事という重職の人でも、委員として出向している場合は対等に近い形での活動ができ、全国の人と繋がれます。日本各地に知人が増え人脈を広げることができるとともに、各地に赴き貴重な体験ができることは大きなメリットです。

日本青年会議所で行っている事業は、予算規模も大きく、やらなければいけないことも非常に多いため、多くのお金と時間がかかります。ただ、私としては費やした分以上のリターンを得ることができています。昨今のコロナ禍でWEB会議なども取り入れており出向しやすくなっていますので、迷っている方は前向きに出向を考えていただきたいです。



岡山青年会議所 新会員情報

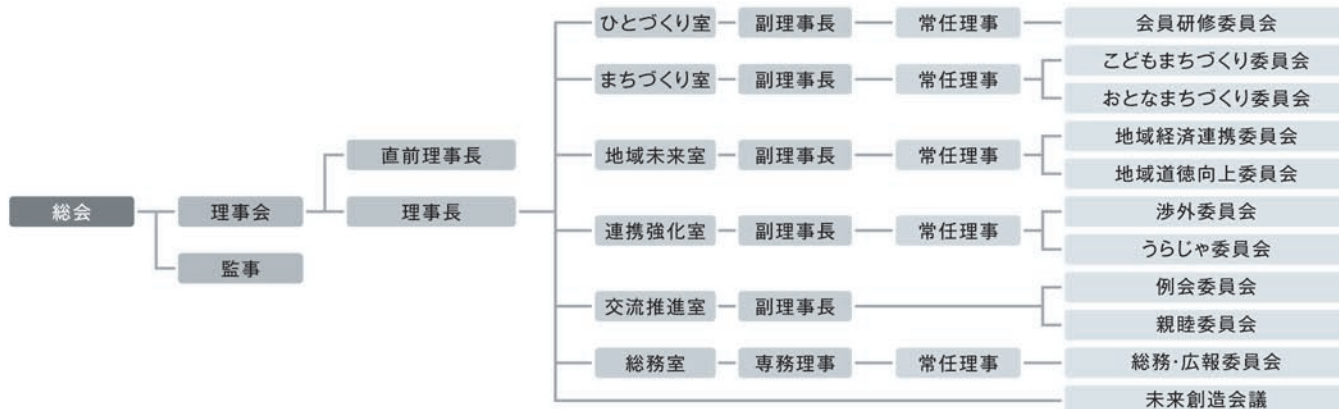
2021年度後期

会社名	役職	氏名
クォーターションマーク株式会社	代表取締役社長	池田 稔
株式会社アラタス	取締役	大川 直人
株式会社GRANDIR	代表取締役	岡野 涼子
株式会社裕翔	代表取締役	岸本 啓吾
株式会社 就労継続支援A型事業所 ありがとうファーム	飲食・イベントチーム チーフマネージャー	佐伯 純子
株式会社しろくまワークス	代表取締役	澤村 賢太
Flick Hair Salon 岡山店		塩見 光央
株式会社 ジュエリー・タナカ	専務取締役	田中 大資
有限会社時末工業	専務取締役	時末 幸範
有限会社ストロベリー	代表取締役	久安 宏一
第一生命保険株式会社	オフィス長	舟木 康平
株式会社増田豆腐店	代表取締役	増田 亮治
南電気	代表	松本 卓也
株式会社フィックス、ジャパン岡山支店		三宅 由幹宏
MSC株式会社	施工技術員	山田 健二
株式会社NEXT	代表取締役	行本 大輔

岡山JCに2021年後期に新しく入会した16人です!半年間の研修期間を経て、次年度からもプラスの思考で何事にも取り組み行動していきます。研修で学んだことを、今後は委員会や事業に全力で関わり、1日でも早く皆様と共に岡山のまちづくりに貢献できる存在になれるように活動していきます!



公益社団法人岡山青年会議所 2022年度 組織図



homepage address

<https://www.okjc.org>



facebook

<https://www.facebook.com/okjc.org>

岡山JCではホームページでも情報を発信しております。事業や運動のご報告など随時更新しております。お気軽にホームページをご覧ください。

岡山青年会議所

検索



次号は1月発行予定です。

発行日 令和3年12月
 発行 公益社団法人岡山青年会議所
 〒700-0985 岡山市北区厚生町3丁目1番15 岡山商工会議所ビル6階
 TEL 086-223-0938 FAX 086-225-0500 email info@jci-okayama.com
 発行責任者 公益社団法人岡山青年会議所
 プラスワン創造委員会
 委員長: 笹山 勇二
 大塚 真弘・佐藤 一弥・眞殿 昌宏
 大田 武勇・坂本 雅樹・篠永 茂・松田 龍乃輔・渡邊 陵太・池元 純一
 梶谷 拓史・片岡 大地・田代 康介